

「第9回東学農民軍の歴史

を訪ねる旅」に参加して

山根 俊郎

10月18日(土)~10月23日(木)5泊6日

【第1日目】10月18日(土)

釜山の金海空港で成田(31名)、関空(7名)、福岡(2名)からの各グループが合流する予定であった。しかし、真っ先に到着するはずの福岡組が来ない。ようやく到着したが、赤峰さんは福岡空港で何のアナウンスもなく飛行機の機内で3時間も待たされた、とぼやいていた。ようやくPM4:30頃に大所帯の40名(内添乗員2名)が揃いバス2台に分乗して一路、慶州駅に向かった。私は、関西組(2号車)から離されて関東組(1号車)に放り込まれた。1号車は、朴猛洙(パク・メンス)先生が乗られとてもエネルギーに熱弁を振るわれていた。慶州駅に着いたのが、PM5:30頃で韓国の同行者12名の内、6名が乗り込んで来られた。PM7:00過ぎに最初の訪問地である第1代・教祖の水雲崔濟愚(チ・ジエウ)の墓の前の門で朴猛洙先生から説明を聞いた。「東学が生まれた背景に仏教思想を取り入れている」しかし、周りは日が暮れて真っ暗だった。聖地化されていて「静肅」の立て看板。夕食時の38名の参加者の自己紹介も散漫になり聞こえにくく前途多難を予感した。私は一昨年の第7回(参加者23名)に初めて参加したが、今回は約2倍の大型団体である。

【第2日目】10月19日(日)

午前中に慶州南山の新羅の王陵や磨崖仏などを見学した。韓国外国语大学の金善譜(キム・ソンボ・朴猛洙先生の同郷の後輩・51歳)教授が仏教美術の面から詳しく説明していただいた。その頃、1号車のバス内の後部座席は大いに盛り上がっていた。寺島(東京都)さんと鈴木(静岡県)さんの70歳代の“漫才コンビ”と少し韓国語を勉強した女性の田中(東京都)さんが韓国人女性(2名)と交流しようとして、通訳として私が乱入して、大騒ぎとなつた。韓国女性のお一人は全北の井邑に住む主婦崔銀姫(チ・ウニ・30歳代?)は、初等学校6学年の息子さんと2人で参加されていた。ハンサルリム運動もされていて、朴猛洙先生の指導で東学第2代教



↑

朴猛洙先生

↑ ↑

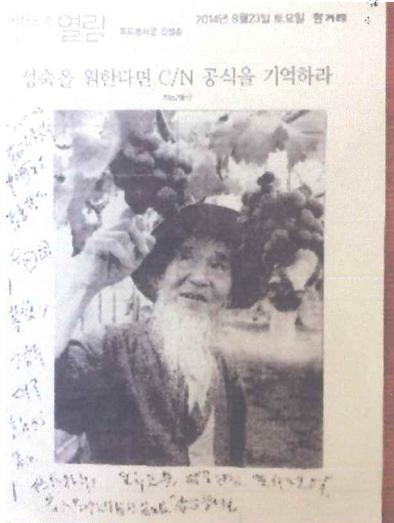
金善譜さん崔銀姫さん

主の海月 崔時亨の小説を書いて5名の共著で年末に出版する予定とのこと。木で平和のリボンのペンダントを50ヶ作り、参加者全員にプレゼントしてくれた。日本の平和憲法がノーベル平和賞受賞を逃したこと残念がっていた。後に「9条の会」の会員の方と情報交換するのに私が通訳をした。心優しい池谷(埼玉県)さんは、行った所ごとにきれいなスケッチを描かれていたが帰国後、9条バッヂを多数、彼女に送られた。もう一人はソウル鐘路の水雲会館で「開闢新聞(since1960-2010)」の編集長をされている任素賢(イム・ソヒョン・51歳)さんである。彼女は、天道教の専従であり、第3代教祖 孫秉熙(ソン・ビヨンヒ=1905年に東学を天道教と改称した)の小説を書かれた。彼女によれば、当時、天道教は300万の信者がいて3・1独立運動を主導した。その80%が北朝鮮にいた。解放後、天道教青友会という政党を作った。私が茶化して「労働党の“サクラ政党(チヨンダソ)”ではないのか?」と尋ねると、彼女は、「決して“サクラ政党”ではない」と強く反駁した。私は、韓国語の中に“サクラ政党”(御用野党)という日本語が残っているのに感動した。午後は、大邱の中心街の崔濟愚が処刑されたという初等学校の校庭に行った。それは牢獄で、その数百メートル南の現代百貨店の裏の駐車場が正しいらしい。記念碑を建てる計画とのこと。夜は、

「歴史を直視する韓・日市民大邱交流会」が盛大に開かれた。主に天道教の方が組織を挙げて大歓迎していただいて百名近い参加があつた。まず、中塚明先生の「私の清日戦争の研究の半世紀」講演で始まり、朴猛洙先生が完璧に通訳される。中塚明先生



その後、韓国側からの多くのあいさつがあった。その後、日本軍「慰安婦」被害に合われたハルモニに日本で集めた募金の贈呈があった。「日本人を恨んではない」というハルモニの言葉に涙が出た。今回は、「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナールの代表の吉川春子 元参議院議員（東京都）がお仲間3名と参加され



金学淳さん

となつた。去年から大邱に立ち寄ることになつたが、その事情に詳しい余江（舞鶴市）さんは「保守的な大邱の市民を納得させるのに金学淳（キム・ハクスン）さんがものすごく頑張られたようだ」と教えてくれた。金学淳さんはブドウ園を営み天道教とハンサンリム運動をされていて日本語がとても堪能である。参加者はブドウ1房、シルトック（蒸餅）1ヶをいただいた。

【第3日目】10月20日(月)

午前中に全北南原の善国寺を見学した。東学農民軍の激戦地でもあるが、崔済愚が修行して自分の思想を東学と宣言した由緒正しき場所である。朴猛洙先生は、「東学が仏教の要素も取り入れている」と説明された。しかし、折からの雨も激しくなつた。70歳代の方は登山を放棄されたが、せっかく来たのだからと無理して上つた。柵はなく登山道に鉄板が敷いてあつた。雨で滑るが何とか30分ほどで登り切つた。中腹の善国寺からの見晴しは雨に煙るが清々しかつた。帰りの下山が大変であった。ゆっくりゆっくり歩いていると池谷（埼玉県）さんが私のベルトを引っ張りながら介護してくれて無事に下山できた。ありがたかつた。

午後は、日本軍がジエノサイト作戦を遂行した蛟龍山城のふもとに着いたが、朴猛洙先生も登ろうと言わずにそこで説明だけされた。今回は参加者にイヤホンガイドが配られて、多少離れていても朴猛洙先生の説明

を聞くことができた。宿泊した南原スイートホテルはとても豪華なホテルで私の部屋もとても広かつた。

【第4日目】10月21日(火)

いよいよ、旅行のメインである東学農民軍の戦跡を訪ねた。＊東学革命謀議塔、＊無名東学農民軍慰靈塔、昼食をはさんで、＊黄土峙（ファントヒョン）戦跡地＊東学農民革命記念館、＊全琫準古宅などを見学した。夜は、光州常緑会館で「歴史を直視する韓・日市民交流会」が盛大な大宴会となつた。主催は、栄山江歴史文化研究院、無等コンブ房（勉強部屋）、後援は、全南文化芸術財団であった。第1部中塚明先生の講演。



朴猛洙先生

元全南大総長 姜ジョンジエ先生



第2部は、光州出身の歌手キム・ウォンジュンの公演があり、85年のヒ

ット曲「岩の島」（パウイソム）も歌ってくれた。きれいなフォークソングと思っていたら、なんと1980年光州民主化抗争で封鎖されて孤立した光州を歌つたものと説明してくれた。その後、日韓5名ずつ演説を行い3時間後に食事にありついた。長い宴会に疲れた。今回の旅行は、「慰安婦」問題、在韓被爆者問題や多くのことを考えさせられ有意義な旅行であった。（終）